

龍泉寺新本堂一般内覧会のご案内

2019年10月より携わってきた浜松市中央区半田山の曹洞宗寺院龍泉寺の本堂建替え計画が、5年以上の歳月を経てようやく完成の運びとなりました。
この度、寺院のご厚意により、皆様にお披露目させていただく機会を設けることができましたのでご案内させていただきます。

日時：2025年2月16日（日）13：30～16：30（14:00と15:30にガイドツアー）

場所：静岡県浜松市中央区半田山4-18-5 龍泉寺

交通：（お車の場合）東名三方原PAスマートインターより5分
新東名浜松浜北インターより20分

（電車・バス）JR浜松駅より医科大学行バス半田山バス停より徒歩3分



下記QRコードで申込をお願いいたします



緊急連絡先：090-2550-2142（河原）
kawahara@ykds.jp

ご住職は、今後のお寺において、堂内の中心にご本尊を安置すると、多目的な活動の妨げとなると考えておられました。そこで、伝統的な寺院建築を得意とする設計事務所や建設会社に、ご本尊を中心としない建物の提案を求められましたが、なかなか共感できずに困っていたそうです。
そのような状況で紹介を受けた河原は、ご住職の考え方をとても面白いと感じ、ご本尊が空中に浮いて畳が広く使える案※1を提示しました。

この案を気に入っていただいたことで、6間半（11.83m）×4間半（8.19m）の無柱空間とするための長さ12mの杉丸太4本組の龍骨（キールトラス）で屋根を支える前例のない木造建築の計画がスタートしました。地元の天竜杉を立ち木の状態から伐採し、山で葉枯らし乾燥※2させた後に、建設会社に運びました。加工場では原寸模型を製作し、屋根の仮組※3が行われました。

2024年1月28日に龍骨を大型トレーラーで搬入し、多くの檀信徒や近隣住民が見守る中、龍骨上げを行いました※4。その後、現場での屋根組み立てや内装工事を行い、2024年10月末に本堂工事が完了し、2024年12月22日に檀信徒内覧会を実施しました。現在は引き続き行われていた外構工事も概ね完了し、このたび一般内覧会を実施させていただくこととなりました。皆様ご多用中とは存じますが、浜松までぜひ足をお運びください。

住職 井上哲秀

設計監理

統括・意匠 株式会社河原泰建築研究室 河原泰、大谷守

構造 株式会社KAP 岡村仁、池谷聡史

設備 株式会社日永設計 永島忠夫、荒川貞正、清水秀雄

照明 灯デザイン 早川亜紀

庭園 多摩美術大学准教授 田嶋豊

建設工事 株式会社アイチケン

造園工事 株式会社グリーンアート庭紀



外観は銅板屋根を再利用して面影を残しつつ、バリアフリー動線となる天竜杉の回廊を加える



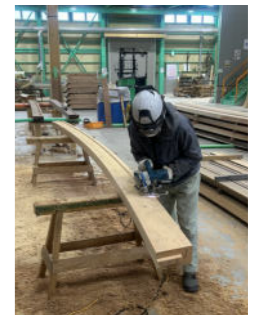
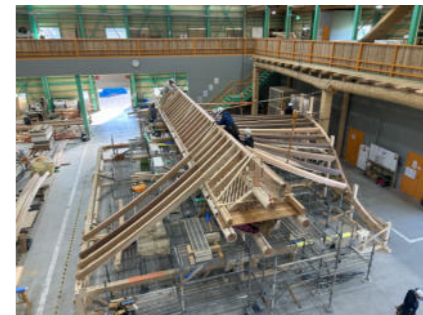
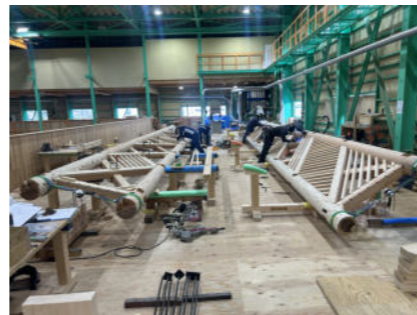
本堂中心に安置されていたご本尊を空中に浮かせて畳の間を多目的に使う※1



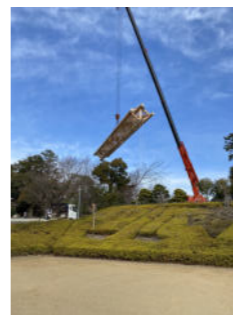
天竜杉の立木を選定し、伐採した後山で葉枯らし乾燥させた。檀家有志が参加する見学会を行った※2



加工場に長さ12mの杉丸太を搬入。原寸模型を製作して確認。



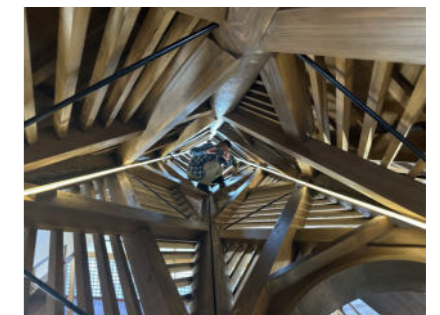
杉丸太4本組の龍骨を製作し、体育館のような加工場で片流れ屋根と唐破風屋根を仮組。垂木は無垢材を削り出して反りをつくる※3



長さ12mの龍骨を大型トレーラーで搬入。クレーンで吊り上げて棟持柱の上に設置した。龍骨上げは檀家や近隣住民など多くの見物者が訪れた※4

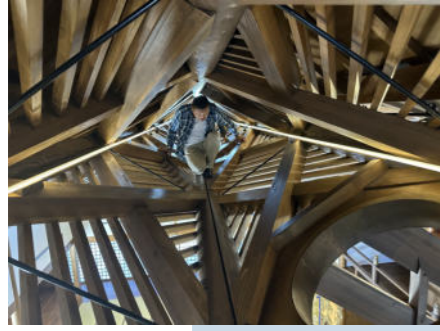


唐破風の垂木間に3次曲面の天井板が貼られる。龍骨は現場でさらに2間伸ばして15.4mになった。妻壁は格子組のガラス開口とし、朝夕は光が差し込む。



夜間の照明検証も繰り返し行った。檀信徒内覧会には150名以上が訪れた。龍骨の内部を歩いてご本尊を正面から眺めることができる。

龍泉寺新本堂ガイドマップ



龍骨（キールトラス）

龍の骨のように組んだ長さ 15.4m の棟です。屋根を支えて柱のない大空間を実現しています。4本の丸太は天竜の山に行って立木の状態から伐り出しました。龍骨の中は歩くことができます。

レース障子

10本引きの障子はすべて収納することができます。通風するので網戸の代わりにもなります。

本堂畳

58.5畳の大広間。床暖房が備わっています。

土間

曹洞宗の本堂形式に多く見られる内土間づくりとしました。ここから靴を脱がずにご本尊や位牌堂に手を合わせることができます。

スロープ

緩やかな折り返しでバリアフリーにお参りできます。

天竜杉板壁

壁板は地元天竜の杉材です。縦羽目押縁留工法でつくられています。

回廊

禅宗寺院では、お堂とお堂をつなぐ通路として回廊が設けられています。大本山永平寺では回廊も修行の場として使われています。

如意宝珠（にょいほうじゅ）

意のままに願いをかなえてくれる有難い宝の玉です。

仏足石（ぶつそくいし）

仏様の足の裏が刻まれています。足腰の健全を願って階段に設置しています。

銅屋根

旧本堂の銅板を剥がして修理し、再設置しています。屋根の勾配も旧本堂と同じです。

下屋／垂木

回廊の屋根として下屋を設けています。等間隔に並ぶ垂木で屋根を支えています。垂木の先端は水の吸込み防止のため白く塗られています。

ご本尊／釈迦如来像

新本堂の特徴はご本尊が高所に安置されていることです。お釈迦様が上方から見守ってくださいています。

前机

旧本堂の須弥壇（しゅみだん）を作り変えて再利用しています。

達磨大師（だるまだいし）

お釈迦様の28番目の弟子で禅の教えをインドから中国に伝えた禅宗の祖。

床の間

長さ 3.6m の特注畳が敷いてあります。

唐破風（からはふ）／後光窓（ごこうまど）

ご本尊を高所に安置するため、屋根に曲線のむくりをつけています。これを唐破風と呼びます。宮大工が曲面状の杉板天井をつくり、屋根葺き職人が曲面になじむように銅板を一枚づつ叩いて実現させました。

破風窓／空調機

暑さ対策も大きなテーマでした。レース障子や無双窓からご本尊の上の破風窓に向かって通気しています。裏堂廊下の上に空調機を設置しています。壁の奥からノズルで吹出し、前机の上から吸込んでいます。

大権修利菩薩（だいげんしゅりぼさつ）

道元禅師が中国から帰国の際に、船に付き添われたとのことから、手をかざして海を眺めるお姿となっています。

信心銘（しんじんめい）

百四十六句、五百八十四字より成る三祖僧粲大師の書物です。書家岡村玉華先生の作品です。

位牌堂

これまでご本尊の裏にあった位牌堂が土間から見通せるようになりました。

龍骨に登る梯子

可動床を設置した場合のみ円孔を潜って上がることができます。この梯子を登った時に足裏が痛い人は健康に気をつけてください。

瞑想樽

一人で瞑想する空間。中庭のアクセントとなっています。



龍のレリーフ

旧本堂の外壁に嵌められていたレリーフを移設しました。

無双窓（むそうまど）

建具をスライドさせることで網戸が現れます。

天水受

屋根の雨水を受け止めます。

唐紙

銀粉で模様を描いた和紙です。

玄関畳

住職の生け花が飾られることもあります。

円窓／摺り上げ障子

土間に立った時に中庭が見えます。中庭は光悦垣を設えた苔庭です。